

第2回羽幌町環境基本計画町民検討会議（市街地区） 会議録

- 1 開催日時
平成28年11月11日（金） 午後6時30分～午後9時00分
- 2 開催場所
北海道海鳥センター
- 3 出席委員及び欠席委員の氏名
 - (1) 出席委員 北條 由紀子、菅原 新一、五十嵐 芳信、岩澤 光子、
竹谷 るみ子、高山 ミイ、濱野 孝、工藤 匡、和泉 幸生、
藤田 隆二、岡部 克寛、木本 志津子、上田 稔、竹中 康進
 - (2) 欠席委員 米山 一夫、米山 しげみ、竹谷 美幸、渡辺 奈智、
篠原 隆宏、川端 博明
- 4 説明のため出席した事務局職員の氏名
町民課 課長 室谷 眞二
町民課環境衛生係 係長 山田 太志
町民課環境衛生係 主査 石郷岡 卓哉
- 5 会議の公開、非公開又は一部公開の別
公開
- 6 会議を非公開又は一部公開とした場合は、その理由
- 7 議題及び議事の要旨
 - (1) 第1回町民会議での意見・取組みの反映状況

〔意見等〕

p36

【委員】 町の取組みとして「…情報発信源の多様化を図ります」とあるのは、海鳥センターでの情報発信を拡充するということか？

【委員】 その発信を考えるのは誰か？

【事務局】 主として海鳥センターや町民課が担う。

【委員】 対応できるか。

【事務局】 スタッフを増やすことを検討中。

p38

【委員】 「海鳥を守る」取組みに携わる主体として、漁業者も加えてほしい。

p42,p43

【委員】 見直し後の計画では（保全対象や活用の場として）「森里川海」という考え方が新たに導入されているので、「森と川と海」という表現を改め、「森里川海」に統一するべき。

p55

【委員】 「…支援します」が「…支援を検討します」に変わっているのは退行であり、やらないと言っているのに等しいので、元に戻して欲しい。

【事務局】 戻すこととする。（「努めます」等も含め、全体的に見直す）

p54

【委員】 環境保護教室とは何の取組みを指しているか？表現が硬いのでは？

【事務局】 もっと軟らかい表現にする。4章で記載される表現のように整理を行う。また、同じ文言はまとめる方向で整理する。

p59

【事務局】 観光客のゴミに関するマナーについて、観光協会としての考えは。

【委員】 観光客とゴミの問題はどこにでもある話だが、羽幌では注意喚起し委ねている状況で、ゴミの持ち帰りなどの認識は高まっていると思う。

【委員】 町のゴミ袋を観光客に買ってもらった方が良いのでは？

【事務局】 きれいに保たれている場にはゴミを投げ捨てにくい心理を利用し、投げ捨てられているごみを放置したままにしない方向を重視していきたい。ゴミ袋を買ってくれるような人は、そもそも投げ捨てないと思うので。

【委員】 ゴミステーションに捨てる人もいる。

【事務局】 周辺住民にボランティア用ゴミ袋を配って、片付けに協力してもらっている。

【委員】 島からごみを持ち帰る観光客はいない。それほど大量ではないのだから、捨てる場所を設ければ良い。常に巡回してやっとな維持できている。見回る人を専属にするくらいでないと。

【事務局】 島民や観光協会と相談していく。

p66

【事務局】 環境活動に携わる団体から「羽幌みんなでつくる自然空間協議会」が抜けているので追加する。

p67

【委員】 環境意識をもった町民の育成のために「社会教育事業」を行うとあるが、この表現だと海鳥センターではなく社会教育課が実施することになる。“等”を付けるか、別の表現にすべき。

p72

【委員】 「環境に配慮した生活用品」という表現は幅が広すぎる。生活排水のことだけなら“洗剤”でよい。

【委員】 どんな物が環境配慮なのか情報発信が必要。

p75

【事務局】 全面的に「森里川海」の考え方にした。昨年、羽幌でキックオフミーティングが行われた。

【委員】 現在はモデル事業中。環境省として森里川海の考え方で環境保全を進めようとしている。羽幌はコンパクトに森里川海がまとまっているのでモデルとしてやっていける地域。

(2) 環境基本計画の見直しのポイント

[意見等]

p69

【事務局】 シーバードフレンドリー制度を新しく発足させ運用するのは難しい取組みでもあるが、各方面の協力を得つつ、町としてバックアップして行けたらと思う。

【委員】 羽幌は世界的に見ても有数の海鳥の繁殖地である。その付加価値を付けて、「海鳥を守ることが得をする」という仕組みを、本当にできるのか、誰がやるのか。海鳥とつながりをもたせて各産業が関わっていけるようにすることを目指す取組みである。

【事務局】 羽幌町の PR になる取組みでもあり、担って中心となって担ってくれる人をサポートしたい。

【事務局】 「はぼろ環境賞」のあらましを改めて伺いたい。

【委員】 環境について取組みたい、勉強したい人や事業者に対し、きっかけ（10～20万円程度の助成金）を渡し、学習したことを発表してもらおう仕組み。環境保全に取り組むきっかけになり、ひいては新しい産業振興にもつながれば。

【事務局】 項目として無くなったが、考え方はシーバードフレンドリー制度の中に取り込まれている。

P45

【委員】 「エネルギー・資源の有効利用」の項の中で、町独自の助成制度が欲しい。例えばペレットストーブ用燃料ペレット購入や家庭用太陽光発電システム購入の促進につながるように。

p51

【委員】 町の取組み「各主体に向けて啓蒙…」の“各主体”はもっと具体的に記載すべき。

p57

【委員】 「スローライフ運動の支援」で町の取組みとして「町民団体の活動を支援します」とあるが、支援の他に町は主体的にどう取組むのかが抜けている。

p70

【委員】 「環境に優しい産業の推進」として農業者ができる環境配慮は農薬の適正利用だけではないので、“環境に配慮した農業”等に修正すべき。町の取組みでは、環境配慮の継続支援だけでなく新規取組みにも。

p76

【委員】 「スローライフ計画の実行」のため町が主体的に取る行動も入れて欲しい。

全体

【委員】 町としてやる姿勢を見せて欲しい。

【委員】 “環境活動”ではなく、“環境保全活動”などの方が適切では。

【委員】 全体的に曖昧で、もっとはっきりした言い方にしてもいい。また環境保全にはお金が掛かるという共通認識を持てるような書き方にするなど。

【委員】 前向きに書いて、取り組める仕組みが重要。

p58

【委員】 「組織」については海鳥センターが取組みの中心になるような書き方に。そのためにも既存の「友の会」なり、海鳥センターをサポートする体制が必要で、友の会の活動を活発化していけたら。

【事務局】 呼びかけだけでは進まない所以リードする人材が必要であり、そのために国の「地域づくり協力隊」の制度を活用してのスタッフ確保も検討している。任期後も羽幌に定着してくれれば。また友の会のバックアップも期待している。本日の皆さんの意見を踏まえ原案を作成し、次回お示ししたい。